

知っておきたい病気のはなし 皮膚糸状菌感染症(水虫)とは

皮膚糸状菌感染症とは?

皮膚糸状菌は、タンパク質の一種のケラチンを栄養源とする真菌で、主として皮膚の角質や爪に感染して病変を起こそうとします。一方、人

体には自然免疫と獲得免疫が備わっていてこれらの真菌に対抗します。自然免疫は生まれつき備わった免疫で、真菌の侵入に対して即座に対応し、殺菌作用のある物質や好中球¹を動員し、その後時間をかけて異物に応じた攻撃方法を記憶する獲得免疫が発動するのです。

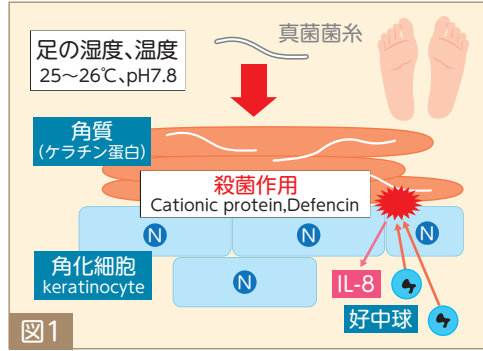


図1

菌が角層内にいるあいだは免疫応答²は起こらず、かゆみなどは感じません。表皮細胞と接して初めて免疫応答が生じ炎症が引き起こされ、紅斑やかゆみが生じます。

※1: 体が感染に抵抗するのを助けたり、傷を治すのを助ける
※2: 有害なものが体に入ってきたときに免疫細胞が侵入を防いだり、攻撃する反応

臨床症状

皮膚糸状菌感染症のなかでももともとよくみられるのは足白癬¹、いわゆる「みずむし」です。小水疱型(小さな水ぶくれ)や趾間型白癬(足ゆびの間)は臨床症状として紅斑やかゆみのあることが多いですが、角質増殖型¹は免疫応答がみられないことが多く紅斑やかゆみはありません。かかとでは単なるひびわれと間違えられます。趾間型では足の指の間が浸軟して白くただれ、よく細菌の二次感染を起こします。とくに糖尿病やその他免疫が低下する基礎疾患があったりするとここのうことが起こりやすく、さらに重症化して蜂窩織炎²を起こしたりします。

※1: 足の裏全体に水虫が増殖してひび割れ、粉をふいたような状態

※2: 皮膚下部の組織が細菌感染し、発熱や皮膚の赤みなどの症状をおこす

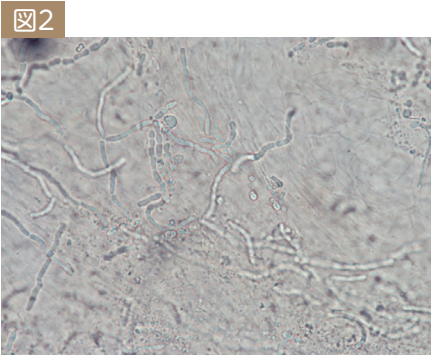


図2

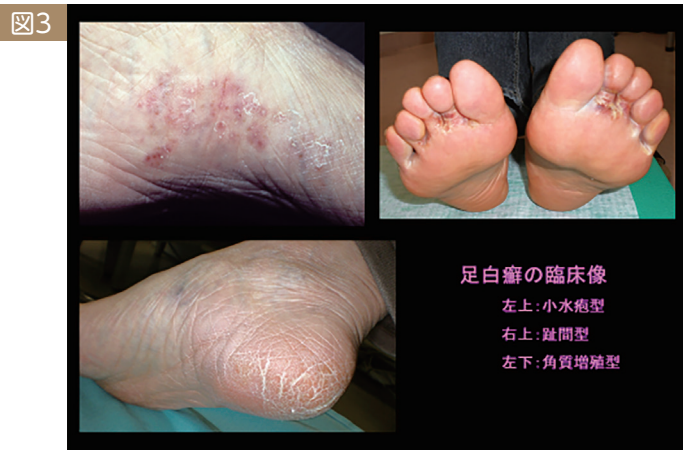


図3

足白癬の臨床像
左上: 小水疱型
右上: 趾間型
左下: 角質増殖型

また、爪に白癬菌(水虫)が感染しますと爪が白く濁り、肥厚して脆くなります。爪白癬は日本人の10人にひとりがかかっていると推察されますが、かゆくも痛くもないので放置されがちです。



大山記念病院
皮膚科
太田 智秋

治療と予防対策

未治療の足白癬(水虫)患者さまは極めて高い確率で周囲の環境中にたくさんの皮膚糸状菌を持続的に散布しています。白癬患者さまの家庭内にはフローリングの床、畳、敷布団、浴室床、足ふきマット、スリッパなどに極めて高い確率で菌が存在しており、散布された皮膚糸状菌は、菌種にもよりますが、数か月から1年前後生存すると報告されています。しかし、足白癬(水虫)患者さまに抗真菌薬外用治療を開始すれば皮膚表面には高濃度の抗真菌薬が分布し、抗菌効果を発揮しているはず。

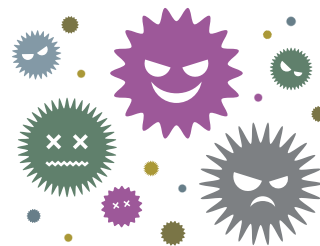


図4

おおむね1か月以内には環境中への菌の散布がほとんどなくなり、家庭内感染を予防できます。また、公衆浴場、スイミングプール、ホテルや旅館、病院の待合室など足白癬患者さまが利用する施設に裸足で立ち入ると、白癬(水虫)にかかっていないひとの足底に菌が高率に付着します。真菌が皮膚に接触してから角層に侵入するまでには1日〜1日半かかるので、自宅に帰ってきてから足を洗えば感染は十分防ぐことができます。ちなみに白癬菌(水虫)の付着した靴下・シーツ・タオルなどは60℃のお湯に30分(70℃なら10分)浸せば菌は死滅しますので、そのあとほかの洗濯物と一緒に洗濯して下さい。



図5

気になる症状があれば、一度ご受診をおすすめします。



■ 皮膚科

	日	月	火	水	木	金	土
午前診	—	—	太田 智秋	太田 智秋	太田 智秋	太田 智秋	太田 智秋
夜間診	—	太田 智秋	太田 智秋	太田 智秋	太田 智秋	太田 智秋	—

大山記念病院

☎ 0120-05-3773 TEL: 0795-28-3773 (携帯電話・PHSからはこちらにおかけください)

【午前診】 9:00 ~ 12:00 【午後診】 15:00 ~ 17:00 【夜間診】 17:00 ~ 19:00